

一般社団法人
日本看護系学会協議会
ニュースレター
JANA

第25号

2018年3月30日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局) 〒673-8588

兵庫県明石市北王子町13-71

公立大学法人 兵庫県立大学 看護学部内

日本看護系学会協議会 事務局

E-mail: jana-jim@cnas.u-hyogo.ac.jp

FAX: 078-925-9433

会長からのメッセージ

一般社団法人 日本看護系学会協議会
会長 片田 範子



平成29年度一般社団法人日本看護系学会協議会社員総会を境に、新期役員で活動を始めてから、早くも10ヶ月目に入ろうとしております。皆様にとって、この1年はどのような年でしたでしょうか。本年度も充実した年になりますことをお祈りいたします。

日本看護系学会協議会の社員は、現在、44学会で構成されております。このように複数の学会が集まって組織を作りました当初の目的は、日本学術会議に看護研究者を選出することでした。この目的は、2006年に始まる第20期の日本学術会議会員に南裕子先生が看護学研究者として選出され、10名を超える連携会員も選出されたことによって達成されました。その後、本協議会は、学会相互の連携と強調を図ることで看護学の発展に寄与するとともに、社会や国に対し重要な課題や意見を発信していくという新たな目的をもって取り組んでまいりました。詳細はホームページをご参照ください。現在では日本学術会議の会員が2名となり、太田喜久子氏が2017年9月まで会員任期を終えられ、その後小松浩子氏が新たに日本学術会議会員に任命されました。片田の会員任期は2020年9月まで継続する事となっています。

今期は、この歴史を踏まえ、未来の看護学をいかに作り上げるのかを考え、その実現に向けた「将来構想企画」の検討を開始しました。今後は、ニュースレター速報などを介して企画内容を皆様に提示し、情報の発信や意見交換を進めていきたいと考えております。

昨年12月には「地方創生時代の看護系大学のチャレンジ——看護学の変革と課題」をテーマとした公開シンポジウムを日本学術会議看護分科会との共同主催で実施しました。地域のニーズに対応したケアイノベーションの開発の必要性に関する問題提起を受け、4名のシンポジストの皆様から看護学の力で地域の課題に取り組まれた成果をお話し頂きました。その内容は、本ニュースレター2頁において、太田喜久子理事が報告しております。各登壇者の発表内容は、ホームページで紹介しております。今後「学術の動向（編集協力：日本学術会議）」で特集される事になっています。是非ご覧ください。

本協議会は、「災害における看護の学会連携」の取り組みも行っております。この企画は昨年度から始められ、協議会の呼びかけで各学会のリソース並びに経費負担を担い、学会横断的に災害の課題を検討するという新たな活動形態です。本年度は、世界防災フォーラム実行委員会が主催する「世界防災フォーラム／防災ダボス会議 @仙台2017」にてセッションを持ちました。詳細は、本ニュースレターの2頁で山本あい子理事が紹介しておりますが、市民の皆様との活発な議論は、学術的な活動を拡張していく重要な機会と思っております。本会議へ参加することに賛同し、学会の取り組みを発表下さいました社員学会の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

また本年度は佐藤紀子理事が、本協議会の「医療事故調査制度」の担当となり、医療事故・調査センター（厚生労働大臣指定）の調査を担う「総合調査委員会」へ複数回参加しております。その際、各事案の調査を担当する「調査部会」に関して、各学会からの委員の推薦、および推薦された委員の部会への出席の協力が求められました。本件につきましては、ニュースレター速報を介しまして、皆様にご協力をお願いしているところです。看護の専門家が出席することで、事故を取り巻く状況の理解が進むという報告を受けております。看護学の知を社会へ還元する重要な機会として、引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

日本看護協会は認定看護師制度の再構築と称して、現行の認定看護師教育に特定行為研修を組み込むという新たな教育を提案しました。それについての意見交換会が「看護未来塾」（詳細は<https://www.kangomirai.com/>）から日本看護協会への申し入れで、1月に急遽行われました。看護系学会の中にはこれまで認定分野の特定や認定看護師の教育あるいは資格認定に寄与してこられたところもあり、この意見交換会への参加について看護系学会への呼びかけを行いました。呼びかけと検討会までの期間が短かった事もあり、参加締め切りに間に合わなかった学会もありました。日本看護協会の提案する新認定看護師制度のあり方について、その是非や策定のプロセスへの疑義などを含めて看護界全体での見直しを行うべきといった意見が出された事が参加者からも報告されています。しかし、特定行為研修を組み込む認定看護師制度に切り替える提案が意見交換会の直後に協会ニュースに掲載されました。認定看護師制度は、日本看護協会だけの制度ではなく、看護界全体で支えている制度です。特に看護系学会は、看護ケアのエビデンスを提示し、看護の成果を可視化していく重要な役割を担っています。今後は、これからの保健医療福祉サービス提供において、認定看護師にとらわれず、社会や国民の抱える健康課題に対応していくために看護職の役割や機能をどのように発展させていくかについて、それぞれの専門領域のエキスパートを抱えている各学会が検討し、その成果を共有する事が大切になるのではないかと考えています。

今期からは、総会の議事録と資料をホームページに掲載しております。内容をご確認頂くことで、社員学会の皆様との意見交換に繋がってまいります。次の時代の看護学の知を創造するためにも、皆様から積極的に意見を出して頂き、議論できる体制づくりを進めて行きたいと考えております。30年度の総会が6月27日（水）に日本赤十字看護大学で開催されます。総会後のセッションについて4月中には皆さんへ発信できるように理事会で検討中です。活発なご参加をよろしくお願い致します。

第20回

一般社団法人日本看護系学会協議会／日本学術会議 健康・生活科学委員会 看護学分科会 公開シンポジウム



日本学術会議担当理事

太田 喜久子

平成29年12月17日（日）に、仙台国際センターにおきまして、「地方創生時代の看護系大学のチャレンジー看護学の変革と課題」をテーマとした公開シンポジウムを開催しました。

吉沢豊予子氏・綿貫成明氏の司会のもとで、片田範子氏の挨拶、および南裕子氏の問題提起—地域のニーズに対応したケアイノベーションの開発の必要性：ローカルな取り組みからグローバルに発信する—を受け、4名のシンポジストから以下の内容の話題提供が行われました。

1. 基金を活用した高知県立大学の取り組み
森下安子氏（高知県立大学大学院 教授）
2. 助産師卒後教育と宮城の助産師出向事業の体制作り
佐藤喜根子氏（東北大学大学院 名誉教授・宮城県看護協会助産師出向コーディネーター）
3. 看護師と医療保険者の役割機能拡大による新たな慢性疾患ケア提供モデルの構築
森山美知子氏（広島大学大学院 教授）

4. 看護とものづくり—大分県立看護科学大学における産学連携推進の取り組み

村嶋幸代氏（大分県立看護科学大学 学長・東京大学名誉教授）
その後の質疑応答では、各地域独自の課題に対する取り組みができており、地域からの普遍的な看護活動の提案、さらにはグローバル化が進められていることを実感したというコメント、こうした地域独自の看護活動は、日本の人口減少の中で私たちがいかに生き抜いていけるのかを示しているという感想、同様の取り組みを繋げていくこと、これらの繋がりをもとに新たな活動を作っていくことができるという提案などが発言されました。また、地域の看護活動がおよび地域課題に関する研究や実践のための人材育成方法についての質問などが出され、意見交換が行われました。

最後に、太田より、日本学術会議 健康・生活科学委員会看護学分科会の班において、今後も引き続き、本テーマに取り組む予定であることを報告し、閉会となりました。

「世界防災フォーラム／ 仙台防災ダボス会議2017」報告



災害看護の学会連携担当理事

山本 あい子

平成29年11月26日から28日まで、「世界防災フォーラムダボス会議 in Sendai」が開催されました。この会議は、2015年に仙台で合意された仙台防災枠組み（国連防災世界会議）を推進するために、現在行われている具体策を各国で共有し、防災に向けた取り組みを強化しようとの考えの元に開催されました。

会期中の11月28日9：00-10：30に、“Word into Action: Contributing to Sendai Framework from Nursing”というテーマで、看護のセッションを開催しました。日本看護系学会が社員学会様に呼びかけ、賛同の得られた5学会様（日本老年看護学会、日本赤十字看護学会、日本放射線看護学会、日本災害看護学会/世界災害看護学会、日本看護科学

学会）との合同開催でした。

それぞれの学会からは、災害関連での活動や作成したマニュアル内容、看護職や市民の方々を対象とした教育プログラム等に関する発表がありました。聴衆は、国外からの方々も含めて、約70名でした。質疑応答では、①エボラ等感染症が地球規模で発生していることから、国際的な視点を持つことの重要性に関する意見、②人材育成をどのように行っていくのか？といった質問が出されました。参加頂いた方々の防災・減災に関する関心の高さに圧倒されたセッションでした。

尚、当日使用のパワーポイントは、JANAウェブページに掲載していますので、どうぞご覧下さい。

医療安全推進における他機関との協力



医療安全担当理事
佐藤 紀子

今回は、「一般社団法人日本医療安全調査機構」（以下、機構）への協力の内容とその具体的な成果をお伝えいたします。機構は平成27年10月に施行された医療事故調査制度の中で、「医療事故調査・支援センター」として厚生労働大臣から指定を受け活動を開始しております。この活動にはJANAも「医療安全推進における他機関との協力」事業として取り組んで参りました。具体的には、医療事故が発生した医療機関において院内調査を行い、その調査報告を機構が収集・分析することで再発防止につなげるための医療事故に係る調査等を行い、再発防止策を提言しております。

現在では多くの看護系学会が支援学会として参画しており、調査部会や再発防止委員会に委員を推薦していただいております。これらの活動の中で、各委員の皆様が発言が重要であること、看護職者が医療安全文化の醸成に貢献できることが示されております。調査部会ではひとつひとつ

の事例に対して丁寧な科学的分析を行っております。一方、再発防止に関しては、これまで、専門分析部会が医療事故再発防止に向けた提言として、下記の3点について報告書、患者に向けた説明用紙、パワポ資料、動画などを作成し、HP等を通して配信しております。

- 第3号 注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析（30年1月）
- 第2号 急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析（29年8月）
- 第1号 中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析—第1報—（29年3月）

これらの報告書等の発信に関しても多くの看護系委員の参画があります。今後とも医療安全に関する各学会の有機的な連携・協力をお願いいたします。

看護学研究と科研費の改革



公的研究費拡大推進担当理事
野嶋 佐由美

科学技術の進歩や社会と科学の関係などにより、研究の在り方も変化しつつあります。科学研究費は広く開かれた最も充実した研究資源でありますので、看護学の発展のために、看護学領域においても科研費の獲得率を向上させていくことは重要なことです。この度、科学研究費助成事業の見直しがなされ、新たな体制となりましたので、看護学研究との関係から若干の所感を述べます。

科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会（平成28年12月）は、「学術研究の現代的要請（挑戦性、総合性、融合性、国際性）により的確に対応するため」「成果の最大化を図るため」「学術研究の多様性の確保のため」「イノベーションの源泉として」「次世代の研究者のため」に対応するために改革が必要であると説明しています。当然看護学研究者もこれらのことを意識していますが、今一度、個々の研究領域にとってどのような意味かを自問してみることも必要かと思えます。

審査区分の変更（大区分・中区分・小区分）と審査方法（総合審査等）が変更となりました。中区分には基盤Aと挑戦的研究（開拓・萌芽）が含まれており、看護学の中区分58（社会医学、看護学およびその関連分野）に属し、第

一段階から看護学領域の専門家ばかりでなく、中区分に属する他の学問領域の研究者からも評価されます。改革の意図である学際性・総合性などを反映しての結果です。

看護学研究者は、看護学の現象を、看護の専門性を追求しつつ、学際的・総合的な視点で多彩な研究方法を駆使して、研究に臨むことが一層求められています。そして、今一度、研究者はもとよりレビューアも、それぞれの研究が看護学の発展にどのように貢献するかを説明する力が求められていることを十分認識する必要があります。また、共通の研究概念を的確に使用することで、説得力を発揮することにもなります。

また、小区分には、基盤B、Cと若手研究が含まれていますが、若手研究には応募要件を博士号取得後8年未満の者に変更しています。看護学は実践の科学であり、これまでも、実践豊かな若手研究、高度実践看護専門職者が多く応募し、臨床に変革をもたらす研究を行ってきました。また、昨今の文科省の「実践」を重視する姿勢とも異なり、このようなときに、博士後8年と限定することは課題でもあります。

看護学研究の独自性・創造性をさらに発揮できる戦略が必要であると考えます。

社員学会紹介

一般社団法人日本公衆衛生看護学会 (Japan Academy of Public Health Nursing)

理事長 麻原 きよみ

日本公衆衛生看護学会は、2012年に設立され5年目を迎えました。本学会の目的は、公衆衛生看護の学術的発展と研究・教育および活動の向上と推進をめざし、国民の健康増進と社会の安寧に寄与することです。現在、会員数は1,600名を超え、その半数以上は保健師をはじめ、公衆衛生に携わる実践者で構成されており、実践と教育および研究の結びつきが強く、学会の目的達成のために三者が協働しているところに特徴があります。

本学会では、2014年に「公衆衛生看護・公衆衛生看護学・保健師」の用語を定義しました。また2016年には、2035年に予測される社会を見据え、学会員と社会に対して本学会が果たすべき公衆衛生看護の役割の方向性と構想を示す「公衆衛生看護のグランドデザイン」を作成し、それに基づいた活動を行っています。

今後も、公衆衛生看護の向上と社会への発信・提言を行う学会活動を継続していきたいと考えています。

一般社団法人日本がん看護学会 (Japanese Society of Cancer Nursing)

理事長 雄西 智恵美

平成29年2月に、小松浩子先生の後任として理事長を拝命しました。どうぞよろしくお願い致します。

日本がん看護学会は、発足から30年が過ぎ、現在は会員数5,300名を超える学会となっています。日本人の2人に1人ががんに罹患するといわれる時代になり、看護職のがん看護への関心も年々高くなり、がん看護の質向上にむけて学会活動も年々活発になっています。これまでに「がん看護実践に強い看護師育成プログラム」の開発や「がん看護コアカリキュラム 日本版」をはじめとしたがん看護に役立つ書籍やガイドラインを発刊してきました。また、「がん看護アドバンスセミナー」や「エキスパートナース育成事業」なども現在も継続して開催しています。更に

は、診療報酬改定に向けたがん看護分野における看護技術の提案なども積極的に行っています。

がん医療の著しい進歩により、がんに罹患しても長く生きられるようになっていますが、長期にわたる治療による心身のストレスや新しい治療による有害事象、経済的負担、就労の問題、あるいはAYA世代や希少がん患者に対する支援体制の充実などたくさんの課題や問題があります。このような課題や問題を視野にいれ、海外のがん看護学会との交流も深めながら、人々の健康と福祉に貢献できる学会活動を推進していきたいと考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。

一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会 (Japan Academy of Diabetes Education and Nursing)

理事長 稲垣 美智子

本学会は昨年20周年を迎え、現在は2,600人を超える会員で組織されています。一つの疾患に特化した学会として、糖尿病看護に対する社会からの期待の大きさを感じ、それに応えることのできる学会でありたいと考えております。そのために、患者とその家族のQOLの向上に寄与する知識と技術の創生・蓄積、さらにはそれを提供できる人材の育成および行政との連携、糖尿病看護が実践しやすい環境支援などを目標に活動をしています。

しかし残念ながら、糖尿病はいまだに増加傾向にあります。平成26年の患者調査による糖尿病患者数は316万6,000人で過去最高となりました。未受診や未治療の人も想定すると約950万人となります。特に重症化は患者のQOLの脅かしとともに、医療費の増大につながり、ひいては治療環境を脅かしてきます。さらに、近年の超高齢社会もまた新たな課題を呈してきています。

本学会では先日の総会において、この先5年間の学会と

して次の5つの重点目標を挙げました。①20年間の研究成果を基盤にした糖尿病教育・看護研究の結実に向けた活動、②内閣府「高齢社会対策の基本的なあり方等に関する検討会」を見据えた超高齢社会に向けた糖尿病教育・看護に関連した基盤整備の一助を担う取り組み、③関連学会と連携した包括的データベースに向けた糖尿病教育・看護研究の集約への取り組みの検討、④糖尿病発症の予防、重症化予防、合併症を持つ人への看護等、様々な発達段階にある人への看護など、糖尿病対策を担う人材育成と活用方法の開発と積極的推進、⑤国民全体の理解と協力を得るための啓発と情報発信方法の検討と実施です。

これらの実現のためには、関連学会をはじめとして多くの方との連携や、ご支援をいただきながら、何よりも学会員が積極的に活動する学会でありたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

公益社団法人日本看護科学学会 (Japanese Academy of Nursing Science)

理事長 鎌倉 やよい

日本看護科学学会は、「日本看護系大学協議会」を基盤として1981年に設立されました。1987年には、日本学術会議への登録が認められ、2008年に一般社団法人格を取得後、2010年に公益社団法人となりました。本学会は設立36年を迎え、会員数は8,000名を超える学会となりました。

日本看護科学学会の目的は、「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もつて人々の健康と福祉に貢献すること」と定款に謳われています。具体的には、公益社団法人としてNursing Scienceの構築と発展を基盤として、国内への社会貢献、さらに国際貢献を行うことであり、主たる学会活動は、学術集会の開催、和文誌の発行、英文誌の発行です。

これらを支える大きな柱として、看護学術用語の標準化、若手研究者育成、研究活動推進、国際活動推進があります。

JANSのこれまでの歴史と成果を引き継ぎ、平成29・30年度はもう一つの柱として「看護ケア開発・標準化」を検討したいと考えます。研究活動を推進し、若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことは非常に重要なJANSの機能です。さらに、それらの研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することが、Nursing Scienceを構築すると共に、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々に還元されると考えます。どうぞ、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人日本小児看護学会 (Japanese Society of Child Health Nursing)

理事長 奈良間 美保

一般社団法人日本小児看護学会は、1991年に発足し、小児看護に関する実践、教育及び研究の発展と向上に努め、それらを通して子どもの健康と福祉に貢献することを目的に活動して参りました。2013年に任意団体から一般社団法人日本小児看護学会へと組織改革に取り組み、常設委員会を基盤としてより一層の活動の充実に向けて取り組んでおります。現在、発足から26年が経過し、会員数は2,200名を越えています。

本学会では、2017年度におきまして学会誌のオンライン公開システムを構築し、本誌に掲載されている論文の最新情報を広く社会に発信する体制が整いました。今後、さらなる“学術・研究活動の推進”に努め、小児看護学の発展に寄与する学会でありたいと考えます。また、“小児看護

の実践の向上”を目指して、学術集会、地方会、及び研修会等における教育活動とともに、子どもに関する倫理、育児支援、在宅療養、特別支援学校等の重要課題に対する本学会の活動成果を広く活用いただけるように学会ホームページ等に掲載しています。これらの学会活動を国際的な活動に発展させることもこれからの課題の一つです。さらに、社会への積極的な貢献という視点から、関係機関との連携や調整を図り、学会としての意見の表明、診療報酬改訂等への主体的な取り組み、災害への備えについての小児看護の視点からの検討や災害発生時の迅速な対応を通して、“子どもや家族にとって有益な環境づくり”に努めております。

今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【役員】

会長

片田 範子

副会長

岡谷 恵子

理事

太田 喜久子（日本学術会議・学協会との協力）

鎌倉 やよい（公的研究費拡大推進）

佐藤 紀子（医療安全推進における他機関との協力）

武村 雪絵（会計）

西村 ユミ（広報・ニュースレターの発行）

野嶋 佐由美（公的研究費拡大推進）

本田 彰子（APN実践推進プロジェクト）

山本 あい子（災害看護の学会連携）

守田 美奈子（広報・ホームページの管理）

小西 美和子（庶務）

監事

高田 早苗

宮腰 由紀子

—編集後記—

平成29年6月に今期役員となりましてから、ニュースレター速報を3回、配信致しました。各理事会で議論されたトピックスを、できるだけ早く社員学会の皆様にお知らせし、その情報を有効に活用いただけることを目指しております。まだまだ遅れ気味ですが、この情報発信が、社員学会の皆様との議論に繋がりましたら幸いです。ホームページも整備され、速報ともに掲載しております。併せて、ご覧ください。また、社員学会の皆様からの情報発信や意見交換を進めるために、本年度は、各社員学会の理事長が交代をされた際、ご挨拶を兼ねて学会の紹介していただく企画も進めてきました。本号に情報を提供下さいました理事長の皆様、ご協力をありがとうございました。他の社員学会の皆様からの情報提供もお待ちしております。引き続き、どうぞよろしく願いいたします。
(西村ユミ)

H29年度日本看護系学会協議会社員学会

2018年3月30日現在

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	宛先(担当者)	
1 公益社団法人 日本看護科学学会	鎌倉やよい	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	(03)5805-1280	(03)5805-1281	office@jans.or.jp	山本 則子	http://jans.umin.ac.jp/
2 一般社団法人 聖路加看護学会	松谷美和子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内	(03)3543-6391	(03)5565-1626	slnr@slcn.ac.jp	松谷美和子	http://slnr.umin.jp/
3 一般社団法人 日本がん看護学会	雄西智恵美	550-0001	大阪府大阪市西区土佐堀1丁目1番23号 コウタイ肥後橋ビル3階D号室 日本がん看護学会事務局		(06)6447-2877	info@jscn.or.jp	森本 悦子	http://jscn.or.jp/
4 一般社団法人 日本看護学教育学会	佐藤 紀子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F ㈱毎日学術フォーラム内	(03)6267-4550	(03)6267-4555	maf-jane@mynavi.jp	佐藤 紀子	http://www.jane-ns.org
5 一般社団法人 日本看護管理学会	上泉 和子	150-0013	東京都渋谷区恵比寿3-29-17 サンシティービル201号室 一般社団法人日本看護管理学会 管理事務所	(03)6721-6803	(03)6721-6823	kaikci@janap.jp	上泉 和子	http://janap.umin.ac.jp
6 一般社団法人 日本看護研究学会	川口 孝泰	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本看護研究学会事務局	(03)3944-8236	(03)5981-9852	g027jsnr-mng@ ml.gakkai.ne.jp	川口 孝泰	http://www.jsnr.jp
7 一般社団法人 日本救急看護学会	松月みどり	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内	(03)3384-8030	(03)3380-8627	jaen@herusu-shuppan. co.jp; jaen-adm@umin.ac.jp	今成・石坂	http://jaen.umin.jp
8 一般社団法人 日本クリティカルケア 看護学会	山勢 博彰	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 株式会社へるす出版事業部内 一般社団法人日本クリティカルケア 看護学会 事務局	(03)5312-7433	(03)5312-7434	jacn_jimu@herusu- shuppan.co.jp	平田・今成	http://jacn.umin.jp/
9 一般社団法人 日本公衆衛生看護学会	麻原きよみ	602-8048	京都市上京区下立売通小川東入る西大 路町146番地 中西印刷㈱内	(075)415-3661	(075)415-3662	japhn@nacoss.com		http://plaza.umin. ac.jp/~JAPHN/
10 一般社団法人 日本小児看護学会	奈良間美保	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル株式会社毎日学術 フォーラム内	(03)6267-4550	(03)6267-4555	maf-jschn@mynavi.jp	堀田 法子	http://jschn.umin.ac.jp/
11 一般社団法人 日本助産学会	高田 昌代	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ学会業務情報化センター内 一般社団法人日本助産学会事務局	(03)5981-9826	(03)5981-9852	g019jam-mng@ ml.gakkai.ne.jp	高田 昌代	http://square.umin.ac.jp/ jam/
12 一般社団法人 日本精神保健看護学会	永井 優子	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター	(03)5389-6254	(03)3368-2822	japmhn-post@bunken. co.jp	萩野 雅	http://www.japmhn.jp/
13 一般社団法人 日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会	田中 秀子	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル㈱春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会事務局	(03)5291-6231	(03)5291-2176	erwoc@shunkosha. com	田中 秀子	http://www.jwocm.org/
14 一般社団法人 日本地域看護学会	宮崎美砂子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 ㈱ワールドプランニング内 日本地域看護学会事務センター	(03)5206-7431	(03)5206-7757	ckango@zfhv.ftbb.net	筒井 愛	http://jachn.umin.jp/
15 一般社団法人 日本糖尿病教育・看護 学会	稲垣美智子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F ㈱ガリレオ学会業務情報化センター内 一般社団法人 日本糖尿病教育・看護 学会事務局	(03)5981-9824	(03)5981-9852	g015jaden-mng@ ml.gakkai.ne.jp	稲垣美智子	http://jaden1996.com/
16 一般社団法人 日本母性看護学会	鈴木 幸子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F ㈱ガリレオ学会業務情報化センター内 一般社団法人 日本母性看護学会事務局	(03)5981-9824	(03)5981-9852	g031jsmn-mng@ ml.gakkai.ne.jp	大月恵理子 定方美恵子	http://bosei.org/
17 一般社団法人 日本循環器看護学会	吉田 俊子	112-0012	東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F 一般社団法人学会支援機構内	(03)5981-6081	(03)5981-6012	jacn@asas-mail.jp	山下 穰	http://www.jacn.jp/
18 高知女子大学看護学会	野嶋佐由美	781-8515	高知県高知市池2751-1 高知県立大学看護学部内	(088)847-5524	(088)847-5524	kwuonaddress@cc.u- kochi.ac.jp	有田 直子	http://www.kochi-wu. ac.jp/~nsgakkai/index.html
19 千葉看護学会	石丸 美奈	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部内	(043)226-2426	(043)226-2426	cans-adm@umin.ac.jp	石丸 美奈	http://cans.umin.jp/
20 日本アディクション 看護学会	森 千鶴	152-8558	東京都目黒区東ヶ丘2-5-1 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部 田中留伊 研究室内	(03)5779-5032 (内線506)		jadict-office@umin. ac.jp	田中 留伊	http://plaza.umin. ac.jp/~jadictn/
21 日本運動器看護学会	吉田 澄恵	113-0033	東京都文京区本郷4-1-5 石渡ビル5F 株式会社アクセライト内	(03)6801-6180	(03)6801-6180	jsmn@accelight.co.jp		http://www.jsmn.jp
22 日本家族看護学会	野嶋佐由美	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F ㈱毎日学術フォーラム内	(03)6267-4550	(03)6267-4555	maf-jarfn@mynavi.jp	小野 智子	http://square.umin.ac.jp/ jarfn/
23 日本看護医療学会	浅野みどり	461-8673	名古屋市中区大幸南1-1-20 名古屋大学大学院医学系研究科213号室 「日本看護医療学会事務局宛」	(052)719-3158		info@jsmc.org	三 尾	http://www.jsnhc.org/ leftpages/ask/ask.html
24 日本看護技術学会	武田 利明	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F ㈱春恒社学会事業部	(03)5291-6231	(03)5291-2176	jsnas@shunkosha.com	武田 利明	http://www.jsnas.jp/
25 日本看護教育学会	野本百合子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 看護教育学教育研究分野気付	(043)226-2397	(043)226-2397	jasne-office@umin. ac.jp	中山登志子	http://jasne.umin.jp
26 日本看護診断学会	江川 隆子	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキレビル ㈱グローバルエクス プレス・国際会議センター内	(03)3352-6223	(03)3352-5421	jsnd@convention- access.com	任 和子	http://jsnd.umin.jp/
27 日本看護福祉学会	岡崎美智子	865-0062	熊本県玉名市富尾888番地 九州看護福祉大学看護福祉学部 社会福祉学科 吉岡久美研究室	(0968)75-1891	(0968)75-1891	kumish@kyushu-ns. ac.jp	吉岡 久美	http://kangofukushi. sakura.ne.jp/

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	宛先(担当者)	
28 日本看護倫理学会	長谷川美栄子	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	(03)5937-5644	(03)3368-2822	jnea-post@bunken.co.jp	小高 雅美	http://jne.umin.jp/
29 日本看護歴史学会	佐々木秀美	737-0004	広島県呉市阿賀南2-10-3 広島文化学園大学内	(03)3409-0190	(0823)74-5722	k-okada@hbg.ac.jp	岡田 京子	http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
30 一般社団法人 日本災害看護学会	山本あい子	170-0002	東京都豊島区巢鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱カワレオ学会業務情報センター内 日本災害看護学会事務所	(03)5981-9824	(03)5981-9852	g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp	三浦 英恵	http://www.jsdn.gr.jp/
31 一般社団法人 日本在宅ケア学会	亀井 智子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F ㈱ワールドプランニング内 日本在宅ケア学会事務センター	(03)5206-7431	(03)5206-7757	jahc@zfhv.ftbb.net	野田 智己	http://www.jahhc.com/
32 日本手術看護学会	石橋まゆみ	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	(03)3813-0485	(03)3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正行	http://www.jona.gr.jp/index.shtml
33 日本新生児看護学会	宇藤 裕子	594-1101	大阪府和泉市室堂町840 大阪母子医療センター看護部内 日本新生児看護学会事務局	(080)4839-0071	(0725)55-6701	http://www.jann.gr.jp/	宇藤 裕子	http://www.jann.gr.jp/
34 一般社団法人 日本腎不全看護学会	佐藤 久光	231-0005	横浜市中区本町6-52 本町アンパビル305	(045)226-3091	(045)226-3092	jinfuzen-n@giga.ocn.ne.jp	佐藤 久光	http://ja-nn.jp/
35 日本生殖看護学会	野澤美江子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内 日本生殖看護学会事務局	(03)5550-2293	(03)5550-2293	jsin@slcn.ac.jp	三 上	http://jsin.umin.jp
36 日本赤十字看護学会	高田 早苗	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)5485-5777	(03)5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	若林 稲美	http://jrcsns.umin.ne.jp/
37 日本難病看護学会	本田 彰子	156-8506	東京都世田谷区上北沢2-1-6 東京都医学総合研究所 難病ケア看護研究室	(03)6834-2290	(03)6834-2291	ushi2@gunma-u.ac.jp	牛久保美津子	http://square.umin.ac.jp/intrac/
38 一般社団法人 日本放射線看護学会	草間 朋子	036-8564	青森県弘前市本町66-1 弘前大学大学院保健学研究科内	(0172)39-5922	(0172)39-5922	kidachi@hirosaki-u.ac.jp	木立るり子	http://www.rnsj.jp/web/index.php
39 日本母子看護学会	齋藤 益子	143-0015	東京都大田区大森西4-16-20 東邦大学医学部看護学科 家族生殖看護学研究室内	(03)3762-9881	(03)3766-3914	jmica2@gmail.com	山崎 圭子	http://jmica.kenkyuukai.jp/about/
40 日本慢性看護学会	河口てる子	090-0011	北海道北見市曙町664-1 日本赤十字北海道看護大学内		(0157)66-3377	jscicn-office@umin.ac.jp		http://jscicn.com/
41 日本ルーラルナース 学会	春山 早苗	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	(0285)58-7512	(0285)44-7257	ynagai@ms2.jichi.ac.jp	永井 優子	http://www.jasrun.org/
42 一般社団法人 日本老年看護学会	堀内 ふき	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 株式会社ワールドプランニング内 一般社団法人日本老年看護学会事務センター	(03)5206-7431	(03)5206-7757	rounenkango@nqfm.ftbb.net	江頭麻衣子	http://www.rounenkango.com/
43 北日本看護学会	塩飽 仁	980-8575	仙台市青葉区星陵町2-1 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 家族支援看護学講座小児看護学分野			liaison@njans.net	杉山 敏子	http://www.njans.net
44 日本ニューロサイエ ンス看護学会	田村 綾子	770-8509	徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学大学院医歯薬学研究部内	(088)633-9036	(088)633-9036	tamura@medsci.tokushima-u.ac.jp		http://www.jann-2012.com

